

コードトーンで 脱ペンタ!

一段階上のソロを目指すために

八幡謙介 著



CONTENTS

はじめに	4
第一章 コード・トーンとは	5
コード・トーンの基礎知識	
基礎ヴォイスイング	7
第二章 基礎ヴォイスイングの配置	12
3度をつなげる	14
3度系の覚え方	
第三章 3度を弾いてみよう!	16
終止感	18
第四章 音を増やしてみよう!	20
リズムック・メロディ	
第五章 コード・トーン以外の音を使う	27
コード・トーンの間をつなぐ	
ラインの作り方	30
まとめ	33
第六章 コード・トーンを自由に使う	37
使うべきコード・トーン	40
第七章 音の装飾	43
音楽的なギターのアプローチ	
ピッキングを抜くために	44

第八章 同じ音やフレーズを継続して使う	50
同じ音を継続させる	
複数の音を継続させる	52
第九章 様々なチェンジでの応用	55
異弦同音でヴォイシングを組み替え	56
最終章	58
EX コード・チェンジ	
① 基礎ヴォイシングを選定	59
② 使用するコード・トーンをおおまかに決める	
おおまかなコード・トーン	60
③ 基本的なラインを作成	
④ ヴァリエーションを作成	61
ヴァリエーション①	62
ヴァリエーション②	63
EX コードが多いチェンジ	64
基礎ヴォイシング	
おおまかなコード・トーン	66
ヴァリエーション①	67
ヴァリエーション②	68
ヴァリエーション③	71
EX コード・チェンジ	72
基礎ヴォイシング	73
最後に	75

はじめに

『ペンター発にはもう厭きた、かといってスケールをただ上下するだけのエクササイズみたいなのもうんざり。コード・トーンを効果的に使えるようになりたい！でも、どうやったらいいのか分からない・・・』

こういった悩みを持つギタリストは多いのではないのでしょうか？本書はそんな皆様の悩みを解決に導くための教本です。

本書の特徴は、

- ・音楽理論を知らなくても大丈夫
- ・高度なテクニックを必要としない
- ・お勉強ではなく、実践重視
- ・キーはすべてCで記載
- ・様々なジャンルに応用可能

という点です。ただし、本書は、以下を前提としています。

- ・TAB が読める
- ・コードの種類を一通り把握している、また、それらを押さえられる
- ・楽曲やソロ等をコピーしたり、作ったことがある

ざっくり言えば、「そこそこギターを弾いている」方が対象となっています。完全な初心者の方は、拙著『ギタリストのためのハーモニー』などで勉強してから本書にトライしていただくといいでしょう。

ギターソロの新境地開拓、アドリブのアイデア、ギター・インストのメロディ作りなどなど、応用のしかたは、ギタリストの数だけあると思います。本書が皆様の音楽の幅を広げることに役立てたなら、筆者としては幸甚です。

2013年
著者

第一章

コード・トーンとは

コード・トーンの基礎知識

そもそもコード・トーンとは何なのか？全く知らない方、うろ覚えの方もたくさんいらっしゃると思います。本章ではまずこのコード・トーンを分かりやすくご説明したいと思います。

コード・トーンとは、簡単に言えば、コードの構成員のことです。コードが家族という集合体で、それぞれのコード・トーンが父や母、息子、娘であると考えれば理解しやすいと思います。

コードを構成する音、コード・トーンは、＜ルート、3度系、5度系、7度系＞に分けられます。まずは、各コード・トーンの役割から見ていきましょう。

ルート

父。家族を支える大黒柱。ブレない。ただ、主張が強すぎて、ときにウザい。
ルートが基準となりコードが構成される。

3度系（3度、 \flat 3度）

母。感情豊かで、優しく、暖かい。家族のどの音と接しても調和する。
ときおり感情が沈む（ \flat 3度）ときがある。
コード全体の雰囲気に影響する。

5度系（5度、 \flat 5度）

兄。堅実でしっかりもの。父（ルート）をサポートする。基本、ブレないが、身を持ち崩す（ \flat 5度）と一気にコード全体に不安をもたらす。

7度系（7度、 \flat 7度、 \natural 7度）

妹。お洒落で個性的。母（3度系）とは大の仲良しで、兄（5度系）ともうまくいっているが、父（ルート）との相性は微妙。
感情の起伏が激しいが、他の家族がしっかりしていれば問題ない。

*3度系、5度系、7度系といった表現は筆者独自のもので、正しい音楽理論用語ではありません。
ご注意ください。

第二章

基礎ヴォイスングの配置

本章では、実際のコード・チェンジ（コード進行）に、前章で学んだ基礎ヴォイスングを配置させ、簡単なラインを弾いてみます。

まずは、コード・チェンジを設定しましょう。

<譜面1>

譜面1のコード進行は以下の通りです。

第1小節: C Δ 7, A7, D-7, G7, C Δ 7

第2小節: A7, D-7, G7, C Δ 7

C Δ 7 A7 D-7 G7を二回繰り返して、最後にもう一回C Δ 7を弾いて終了です。それぞれのコードに基礎ヴォイスングを当てはめていきます。ただし、ここでルールがあります。

基礎ヴォイスングはできるだけ近くで作る

例えば、C Δ 7のヴォイスングを5フレットあたりで作って、A7で12フレットあたりまで飛ぶ、といったことはしません。音の分布が離れていると、見失う原因にもなりますし、なにより音楽的に不自然となります。そうならないために、基礎ヴォイスングはできるだけ近くで作っていきます。ちなみにこれは、前章のダイアグラムで見たヴォイスングの種類を揃える、ということではありません。

説明はさておき、実際にやってみましょう。まず、基準となるヴォイスングを決めます。今回は、C Δ 7をヴォイスング③にして、それを基準に他の基礎ヴォイスングを近場で探します。すると、次のようになりました。

C Δ 7 (③)

1 5
2 3
3 7 R
4 5

3 4 5 6 7

A7 (①)

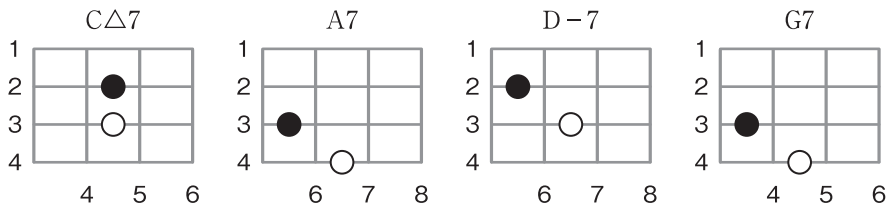
1 R
2 5
3 3
4 b7

5 6 7 8 9

第三章

3度を弾いてみよう!

では、実際に3度を弾いてみましょう。ポジションは、前章で学んだ下記のものを使用します。



<譜面2>

Musical notation for a triad exercise in 4/4 time. The exercise consists of three measures, each with a different chord and fret position. The notation includes a treble clef, a 4/4 time signature, and a bass line with string and fret numbers.

Measure	Chord	Fret	String
1	CΔ7	5	2
2	A7	6	3
3	D-7	6	2
4	G7	4	3
5	CΔ7	5	3
6	A7	6	2
7	D-7	6	2
8	G7	4	3
9	CΔ7	5	3

第四章

音を増やしてみよう!

前章では3度の音をつなげて、最後の<解決>のみルートを使いました。本章では、他のコード・トーンも使い、より音楽的にしていきたいと思います。ただ、フレーズは演奏するジャンルによって異なってきます。本書では、多くのギタリストにコード・トーンの使い方のエッセンスを学んでいただきたいので、特定のジャンルに特化したフレーズを避け、できるだけ何にでも当てはまるようなものを提示したいと思います。

リズムック・メロディ

ここで、<リズムック・メロディ>についてご説明したいと思います。リズムック・メロディとは、メロディやフレーズから音程を省いたものです。言い換えれば、使いたい音を、どんなリズムで弾くか?ということです。本書では、『使いたい音』はコード・トーンです。つまり、コード・トーンを、どういったリズムに当てはめて使うか、ということは今から学んでいただきたいのです。といっても、何も難しいことはありません。ある法則に従って、ひとつずつ丁寧に音を増やしていけばいいのです。

我々は既に、『次のコードの3度の音を半拍食って使う』ということを知っています。もちろんこれをいつまでも遵守する必要はありませんが、とりあえず本章では『3度を半拍食って入る』やり方をベースに考えていきましょう。

では、手順をご紹介します。

- ①今弾いているコードの3度を弾く
- ②次のコードの3度に近い音を探す(同じコードから)
- ③その音を、適当な拍の裏で弾いてみる

これだけです。説明だけではまいち分からないと思うので、実際にやってみましょう。コード・チェンジは前章と同じです。

第五章

コード・トーン以外の音を使う

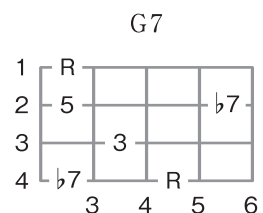
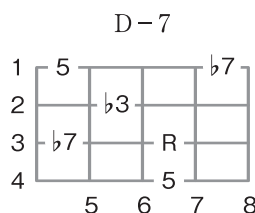
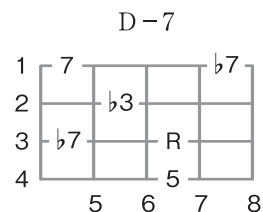
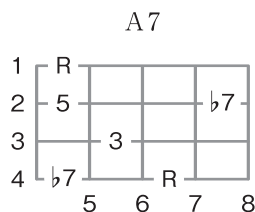
ここまでは、コード・トーンの使い方をご説明してきました。しかし、これだけではやはり物足りません。実際、コード・トーンだけで構築されたメロディやフレーズはあまりありません。「コード・トーンを効果的に使う」ということは、「コード・トーンしか使わない」ということではなく、それ以外の音も使っているのです（というより、使わないとフレーズが広がりません）。そこで、本章では、コード・トーン以外の音の使い方を学んでいきたいと思います。

一般的な考え方だと、ここでスケールの出番となるのですが、そうすると、スケールの勉強や、それらを覚えるための練習が必要となります。大抵の方は、そこでもうギブアップしてしまうのではないかと筆者は想像します。そうならないために、スケールのお勉強にならずにスケールを使う（結果的にスケールを使っている）方法をお教えしたいと思います。

コード・トーンの間をつなぐ

前章では、あるコードの3度と次のコードの3度をつなぐためのクッションとして、次のコードの3度に一番近いコード・トーンを使う、というテクニックをご紹介しました。しかし、これだけでは音が少なすぎて、音楽的にあまり発展しません。そこで今回は、コード・トーン以外の音も使って、あるコードの3度から次のコードの3度へとつなげたいと思います。例として、A7からD-7、D-7からG7というチェンジで試してみましょう。

まず、それぞれの基礎ヴォイスिंगを確認します。



第六章

コード・トーンを自由に使う

では、本章から少し実践的な内容に移行します。前章までは、各コードの3度から3度へとコード・トーンをつなげていましたが、本章ではそのルールを一端解除し、コード・トーンをもっと自由に使ってみます。そうすることで選択肢が一気に増えますし、各コード・トーンの特徴なども見えてくるはずです。

今回もまた同じチェンジで行いましょう。『同じのはもう厭きた、そろそろ別のチェンジでラインをつくってみたい』と思っている方もおられるでしょうが、最初のうちは、特定のよくあるパターンを徹底的に研究することが大事なのです。ですから、もう少し我慢してお付き合いください。

ただし、今回はラインを8小節分ちゃんと作る必要はありません。全体のバランスも考える必要はありません。例えば、C△7からA7へのラインだけをつくってみたい、D-7 G7 C△7のパターンを研究したり、自由に学んでいただいて結構です。手順としては、

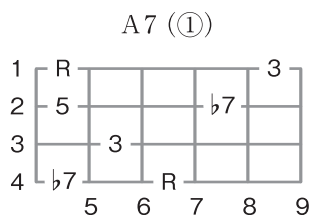
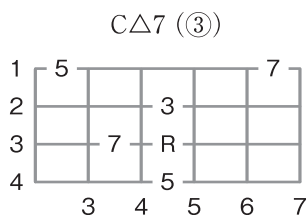
- ①チェンジを決める
- ②使うヴォイシングを決める
- ③それぞれのコードで使うコード・トーンを決める
- ④ラインを作る

では、この手順に従って進めていきましょう。

C△7 A7

まずは練習がてら、C△7 A7で行います。ヴォイシングは、下記のものを使いましょう。

() 内はヴォイシングの番号です。



これらを自由に組み合わせてラインを作ります。とはいえ、いきなりそう言われても困ってしまいますよね？ではどうすればいいのかというと、適当にコード・トーンを組み合わせて弾いてみます。適当に弾くことで、自分が思いもよらなかったラインを発見できるかもしれません。また、知っているメロディに近いものが偶然見つかるかもしれません。そうした中で、自分が気に入ったものがあれば残しておきます。

では試しに、いくつか例を挙げてみましょう。

第七章

音の装飾

音楽的なギターの奏法

本章では、ラインやフレーズをより音楽的にするための細かいテクニックをご紹介します。まずはギターの奏法から見直してみましょう。筆者が声を大にして言いたいことは、

フルピッキングは表現を殺す！

ということです。これに驚きを感じる方は、ちょっと危険です。しかし、なぜフルピッキングが表現を殺してしまうのでしょうか？

全ての音をピッキングすると、一音一音はクリアに発音されますが、その分、変化に乏しくなります。例えるなら、アナウンサーが一音一音はっきりと発音して原稿を読むようなものです。それは、『情報を正確に伝える』という実務的な技術で、決して『表現』ではありません。読者の皆様は、常にフルピッキングで、一音一音はっきりとフレーズを弾いてはいませんか？もしそうだとしたら、ここで一旦振り返ってみるのもいいかと思います。

では、具体的にどうすればいいのかというと、ラインやフレーズを弾く際、ピッキングを積極的に抜き、スライド、ハンマリング・オン、プリング・オフ、チョーキングなどのテクニックを多用します。これだけで、表現の幅はぐっと広がります。そうなると、当然、『どこで、どれだけ使えばいいのか』という疑問が生じますが、これには正解がありません。フレーズによってはフルに近いほどピッキングした方がいい場合もありますし、可能な限りピッキングを抜いた方が音楽的になる場合もあります（どちらかというと後者が当てはまる場合が多いはず）。ジャンルによっても違いますし、場面（イントロ、リフ、ソロ、間奏など）によっても基準は変わってきます。とにかく、的確な判断をするためには、経験を積んで、理解を深めていくしかありません。

本書はどちらかというところから初心者から中級者のための教本なので、『脱フルピッキング』という観点で話を進めていくことにします。

第八章

同じ音やフレーズを継続して使う

これまで、「バラエティに富んだ音使い」を学んできました。本章ではそれらと正反対の、「同じ音、同じフレーズを継続して使う」ということをお教えしたいと思います。しかし、これには疑問もあるでしょう。

『同じ音やフレーズをずっと使っていると変化に乏しく、退屈なラインにならない?』

『そもそもコード・トーンを効果的に使うことが目的なんじゃないの?』

確かに、一理あります。が、ものごとはバランスです。例えば、アクション映画でも、最初から最後までずーっと派手な戦闘シーンだったら疲れてしまいますよね。それに、どこが見せ場なのも分かりません。しかし、随所に会話や回想シーンを盛り込み、程よく退屈(?)させることで、戦闘シーンとのバランスや対比が生まれ、より面白い、ダイナミックなストーリーに仕上がります。

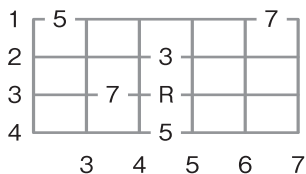
音楽も同じです。時には変化に乏しいラインをあえて弾くことも重要です。ただし、今回は「ソロ全体の中でのバランス配分」については触れません。とりあえず、アイデアとして、同じ音やフレーズをどう継続させるかということのみをご説明します。

同じ音を継続させる

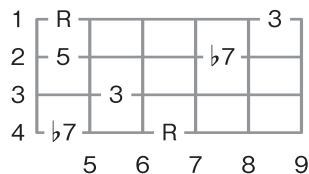
コード・チェンジは今までと同じ、C△7 A7 D-7 G7 です。

まずは、それぞれのコードのヴォイスングを決めましょう。これまで何度か使ってきたものを使用します。

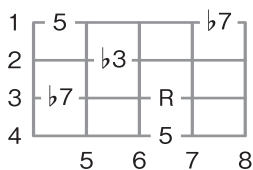
C△7 (③)



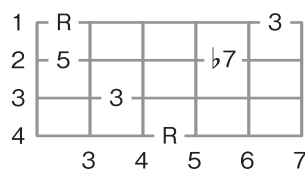
A7 (①)



D-7 (③)



G7 (①)



第九章

様々なチェンジでの応用

本書で学んだコード・トーンの使い方を応用すれば、どんなに難しいチェンジでも、ヴォイシングさえ判別すれば対応できます。では、今までとは違うチェンジで、ラインをつくる過程をおさらいしてみましょう。コード・チェンジは<C△7 F△7 A♭7 G7>とします。基礎ヴォイシングは、とりあえず以下のものを使います。

C△7

1	5					7
2				3		
3		7		R		
4			5			
	3	4	5	6	7	

F△7

1	3					5
2	7		R			
3	5					
4				3		
	5	6	7	8		

A♭7

1	R					3
2	5				♭7	
3		3				
4	♭7		R			
	4	5	6	7	8	

G7

1	R					3
2	5				♭7	
3		3				
4	♭7		R			
	3	4	5	6	7	

最初に、使うべきコード・トーンを判別しておきましょう。上記のチェンジですと、明らかにA♭7がアヤシイですよ（笑）どうやって探すかという、4つのダイアグラムを重ねて、共通した音を消していきます。残った音は、上記のチェンジで共通したものがない音です。そして再度、その音がどのコードのコード・トーンであったかを確認します。

最終章

では最後に、ちょっと複雑なチェンジでラインを作っていきます。それぞれを次の手順で行います。

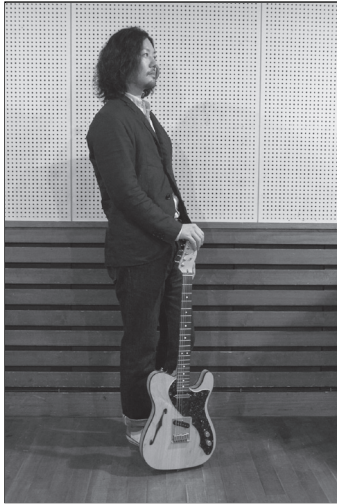
- ① 基礎ヴォイシングを選定
- ② 使用するコード・トーンをおおまかに決める
- ③ 基本的なラインを作成
- ④ ヴァリエーションを作成

読者の皆様は、④のヴァリエーションだけを見るのではなく、できるだけ①からきっちりと順を追って、ラインの作り方を学んでください。なお、本章では、スライド、ハンマリング・オン、プリング・オフ、チョーキングでの装飾は表記しません。あくまで音とリズムの変化のみを記載します。細かい装飾は、そんなに難しいことではないので、各自で判断し、挿入してください。

EX コード・チェンジ

<譜面46>

The musical score is presented in three systems, each with a treble clef and a 4/4 time signature. Above each system, chord changes are indicated by short horizontal lines. The first system has five measures with chords D-7, G7, E-7(b5), A7, and D-7. The second system has five measures with chords G7, CΔ7, a double slash (//) indicating a double bar line, D-7, and G7. The third system has five measures with chords E-7(b5), A7, D-7, G7, and CΔ7. Below each system is a set of guitar tablature lines labeled 'T' and 'B'.



■ 著者プロフィール

八幡 謙介（やはた けんすけ）

1978年京都生まれ。15歳でギターを手にする。十代では様々なバンドでライブハウスに出演。

2000年7月、バークリー音楽大学入学。主にRichie Hart（ギター）、Winston Maccaw（アンサンブル）、Mohamed Camara（アフリカンドラム）等に師事。また校外ではボストンを拠点とするラテンバンドBABALOOのサイドギタリストを約1年間勤め、アメリカ東海岸全域で幅広くライブを行う。

2003年、同校パフォーマンス科卒業（Professional Diploma）。11月、アメリカでの活動に見切りをつけ、ドイツ、ハンブルグに移住。Colon Language Centerにて3ヶ月間ドイツ語を学ぶ。

2004年、オランダ、アムステルダムに移住。市内ジャズクラブで週5日のセッション修行を約4ヶ月間行う。8月帰国。滋賀県守山市のBlue Music Studio音楽教室にて後進の指導にあたる傍ら、演奏活動や、奏法の研究を行う。

2009年、教則本の執筆を開始。

9月、『ギタリスト身体論 ～達人に学ぶ脱力奏法』を刊行。アマチュアからプロまで、多くのギタリストから反響を得る。

12月、武道家 日野晃氏と出会う。

2010年、日野晃氏主宰の舞台『Real Contact』に衝撃を受け、それまでの音楽を全て捨て、Freejazzを始める。

2011年10月、横浜に移住。神奈川県大川通にて八幡謙介ギター教室を主催。

2013年より小説を刊行（全て電子本）。詳しくは「八幡謙介の本のサイト」

<http://yahatakensuke.wix.com/yahata> を参照。

Discography

2007年 「My Heart's Still There」 ソロ 自主制作（完売）

2008年 「Bossa De Poche N1」 Cafe Vanille 自主制作（完売）

DVD

2012年 「ギタリスト身体論DVD」 中央アート出版社

Bibliography

2009年 「ギタリスト身体論」 中央アート出版社

2011年 「ギタリストのためのハーモニー」 中央アート出版社

「ギタリスト身体論2」 中央アート出版社

2012年 「J-POPのツボ」 中央アート出版社

2012年 「ギタリストが譜面を読めるようになるまで付き合う本」

2013年 「ギタリストのためのアドリブの入り口」

ホームページ

ギターレッスン、書籍への質問、感想等は下記アドレスまで。

<http://ameblo.jp/kennsukeyahata/>

八幡謙介ギター教室in横浜

数々の革新的ギター教則本を執筆してきた筆者に、直接習ってみませんか？ 良心的な受講料と通いやすいシステムで、誰でも気軽にレッスンを受けることができます。

体格や筋力に頼らない奏法を教えていますので、女性や年配の方でも十分習得可能です。初心者や、まだギターを持っていないという方、音楽の専門知識が全くない方も大歓迎です。

・アクセス

JR横浜線大口駅から徒歩5分

京急本線子安駅から徒歩5分

・レッスン時間

12時～23時(最終22時～)、不定休

・システム

*FLEX制。

*毎月の予約日時を自由に選択できます。

*ギター、機材レンタル無料(アコギあり)

*仕事や学校帰りに毎回手ぶらで通えます

*完全プライベートレッスン

*自分のペースで安心して受講できます

・料金

入会金無料

60分4千円、120分8千円

学割(高校生以下)60分3千円、120分6千円

その他割引あり、詳しくはサイトで

・オンラインレッスン

無料ネット電話<skype>を使ったオンラインレッスンです

60分4千円、前払い制

詳しくはサイトで

・レッスン内容

生徒様のご要望に合わせて内容を決定します

*好きなアーティストの曲を練習したい

*教本の内容を詳しく教えてほしい

*アドリブができるようになりたい

*速弾きを教えてほしい

*アコギで弾き語りかしたい

詳しい情報、ご予約方法などは、**八幡謙介ギター教室**で検索!「横浜 ギター教室」でも上位に出ます

*上記記載の内容に変更があるかもしれません。各自でサイトを見て再確認してください。

コードトーンで脱ペンタ! 一段階上のソロを目指すために

C130930-1(1.0x)

2013年9月30日 初版第1刷発行



著 者：八幡 謙介
浄 書：ミルテ
表 紙：ハント鈴加
印 刷：日本制作センター
製 本：日本制作センター

発 行 者：吉開 狭手臣

発 行 所：BAD 中央アート出版社

〒101-0031 東京都千代田区東神田1-11-4

TEL 03-3861-2861(代表)

FAX 03-3861-2862

振替口座 00180-5-66324

小社への御意見・御希望は E-mail: info@chuoart.co.jp
ホームページ: <http://www.chuoart.co.jp>

ISBN978-4-8136-0729-8

本書の無断複製・転載を禁じます。
落丁・乱丁の際はお取替え致します。